

C-4 妊娠・出産・育児における心理的变化についての一考察  
岩手大教育

○笹沢園子

目的 女性が妊娠・出産・育児を通して母親になる過程での心理的变化について考察し、今後、「家族の中での母親」とらえる時の手がかりとすることを目的とする。

方法①パーソナリティ・インベントリィを用い、妊娠10ヶ月時(子どもがいない状態)、出産後の各期(4, 16, 32週時)のパーソナリティを測定し、各コンポーネントごとに変化をみる。

②各期毎に、質問紙により、妊娠・出産・育児・自分の性格変化・その他について調べ、その変化をみる。

結果①パーソナリティは、出産や育児を通して根本的に変わってしまうことはないが、4週と16週では、その人固有のパーソナリティが強化される傾向にある。特に、粘り強さ、ヒステリー、神経質をあらわす各コンポーネントにおいてこの傾向は著しく、中でも、神経質コンポーネントは32週まで強化されつづける。

②妊娠したことに対しては、積極的にしろ消極的にしろ100%の人が肯定的に受けとめて、科学的に対処しているが、初産婦故に分娩への不安が強く、マタernalアタッチメントも形成されていない。出産後、4週では育児への不安をもちながらも育児を肯定的にとらえている人が大部分だが、「育児に自信がない」「睡眠不足だ」「忙しすぎる」と否定的な人もいる。自分の性格の変化については、4週では63%が変化したとし、内100%が良い方(強くなった、社交性がでてきた)への変化、16週では47%が変化し、内100%が良い方への変化、32週では64%が変化し、内33%が悪くなる方(イライラする)への変化で「忙しさ」を原因とする人が多い。母乳栄養は期毎に減った。祖父母との同居は19%で育児への意見の違いが悩みのた